

クローズアップ

NGO・NPO

特定非営利活動法人

外国人医療センター 国籍の区別なく、よい医療サービスを受けられる地域を目指して

Close Up

NGO・NPO

特定非営利活動法人外国人医療センターでは、愛知県が、外国人、日本人の区別なく医療サービスを受けることができる地域となることを目指し、会員やボランティア、多くの関係団体の支援や協力を得ながら活動を続けています。

設立経緯

一九九〇年の出入国管理及び難民認定法改定に伴い、外国人登録者数が増え、日本で働く外国人労働者の問題がクローズアップされるようになりました。一九九七年四月には、外国人にかかわる支援団体が全国から集うフォーラムが愛知県瀬戸市で開催され、教育、医療、国際結婚など一一の分科会が設けられました。中でも医療は、命にかかわる問題であるにもかかわらず、言葉の問題や健康保険制度への加入が困難であるなど、十分な医療サービスを受けられない実態があり、外国人の医療支援を行うことが課題として取り上げられました。そのような状況の中、愛知県周辺の外国人支援者や医療関係者が中心となり、一九九八年八月、外国人医療センター (Medical Information Center Aichi: MICA) を任意団体として設立、二〇〇二年四月、特定非営利活動団体となりました。

活動内容

主要な活動は、外国人無料健康相談会、医療情報提供事業、愛知県救急医療情報シ

ステム管理事業です。すべての活動は、会員やボランティア、多くの関係団体の協力によって成り立っています。

外国人無料

健康相談会では、医師、歯科医師、看護師、通訳といった専門ボランティアをはじめ、一般や学生ボランティアの協力を得て毎月一回行っています。相談会には、年間約二〇〇名の外国人が訪れ、活動開始以降、延べ人数にして八〇〇名以上の外国人に対応しています。そのうち、六〇％～七〇％が、健康保険制度未加入の状態で、なかなか医療機関へ行くことができない状況が浮かび上がってきます。また、検査結果や薬の説明書を持参し、医師と三〇分以上にわたり話し合ったり、歯科治療について詳細に確認し、説明を受けている相談者も少なくありません。治療が必要な場合は、保険未加入でも受入れ可能な医療機関を紹介しており、「先生が気に入ったから、遠くても通う」と言う外国人も少なくなく、通院治療を続けている外国人もいるようです。時には、癌などの重篤な疾患の発見につながったこともあります。

医療情報提供事業では、電話やメールでの問い合わせに対応しています。外国語が



↑看護師による問診

(特活) 外国人医療センター

〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南1-20-11 NPOプラザなごや4F

TEL & FAX 052-588-7040

E-mail : mica@r6.dion.ne.jp URL : http://www.h6.dion.ne.jp/~mica/



↑歯科医による相談

通じる医療機関を紹介してほしいという要望が最も多く見られます。愛知県といえば、日系ブラジル人が多いことで知られて

いますが、外国人医療センターは、事務所が名古屋にあるためか、英語での問い合わせがほとんどです。資金やスタッフの不足もあり、通訳を置いていない影響もあると考えられます。また、問い合わせは英語でも、母国語が英語でないこともあり、しばしば言葉が通じないこともあります。そのような場合は、相手の日本語能力を把握し、簡単な日本語で意思疎通を図ることもあります。電話での問い合わせは、顔が見えない分、深刻な状況の問い合わせもみられます。肝臓疾患の末期状態であるにもかかわらず退院を迫られていたり、医療機関を受診したいが、同じ国の同居人が信用できなかったり、治療費が三〇〇万〜四〇〇万かかり、支払うことができない、などの問い合わせがありました。困難なケースの場合は対応に苦慮しますが、関係団体などの協力で、少しでも相談者が安心できるよう、情報の充実に努めています。

愛知県救急医療情報システムは、外国人が愛知県内の外国語対応医療機関を探すこ

とができるシステムで、電話とホームページでの検索が可能です。設立以降の活動が認められ、システムの管理業務委託を受けることができました。システム運営に関し、外国人無料健康相談会や医療情報提供事業などの経験をもとに、さまざまな提案を行い、受け入れていただきました。システム管理業務も、ボランティアの協力で行っています。もともとある日本語の音声案内を、ボランティアが英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語に翻訳、ネイティブチェックを行い、そして、各言語の音声案内を録音、編集し、実施前に確認作業を行いました。また、ホームページに使用する地図は、外国人が利用できるよう、日本語とアルファベットを併記し、現地確認も行っています。

自治体への提言や要望

問い合わせにおいては、医療機関からの通訳派遣要望もありますが、問題が多く、対応していません。しかし、治療の効果を上げるためには、説明はとても大切です。説明が十分理解できないため、治療効果が得られなかった、誤解を招いてしまったなどの問題が起っています。現場では、患者の治療を目標に、言葉が通じないなどの困難な状況の中で、医療関係者は対応しています。また、通訳は板ばさみの状況になりやすく、責任問題にも発展しかねません。通訳ボランティアは、正確で誠実な通訳を行うために、非常に多くの情報収集を行い、対応

できるようにしています。しかし、専門的な内容や個人のプライバシーに接するにもかかわらず、通訳は診療報酬にないため、謝礼は全くありません。公的機関による医療機関への通訳派遣システムがあれば、医療機関の通訳確保ができ、医療サービスの充実を図ることができ、医療サービスの確保や責任問題など、さまざまな問題はありますが、現場では通訳が必要な状況です。通訳派遣に取り組んでいたければ、医療機関や患者にとっても、メリットは非常に大きく、医療サービスが充実する地域になっていくでしょう。

今後の取組み

外国人医療センターでは、外国人の支援のみならず、外国人患者を受け入れていただける医療機関には、各国言語での問診票や薬袋を配布するなどの支援も行っています。通訳確保が困難な現在、通訳がいなくても、最低限のコミュニケーションを取ることも、最低限の「コミュニケーション」を取ることができるよう、問診票、薬袋などを、ボランティアの協力を得て作成し、ホームページに掲載できるように取り組んでいます。

外国人医療の問題は、多くの支援団体や自治体を含む関係機関との連携が重要です。お互いを補い合い、協力することで、問題解決に進むことができ、地域の発展にもつながります。多くの団体と連携し、外国人医療問題解決に取り組む、地域に貢献していきたいと思っています。

クローズアップ

NGO・NPO

Close Up

NGO・NPO

CCS 世界の子どもと 手をつなぐ学生の会 外国の文化的背景を持つ子どもへの サポートの必要性

設立の経緯

一九九三年に八王子の大学生が行ったヒアリング調査の結果、外国の文化的背景を持つ子どもたちは、言葉の壁や教科学習における落ちこぼれなどの問題を抱えるだけではなく、いじめやアイデンティティ否定による積極性の喪失など非常に困難な状況に置かれていることが浮き彫りになりました。このような状況の改善を目的として、子どもたちと年の近い学生が学習と適応の両面でサポートを行うべくCCS世界の子どもと手をつなぐ学生の会(以下、CCS)を設立しました。

活動内容

現在CCSでは二三名の学生ボランティアが二三名の子どもへのサポートに取り組んでいます。CCSの主な活動は、外国の文化的背景を持つ子どもへの①学習支援、②メンタルサポート、③エンパワメントです。八王子、武蔵境、目黒、練馬、新宿、蔵前の六カ所の学習教室で、学生が子どもの学習支援を行っています。



↑学習風景

ます。日本語指導・教科学習・受験勉強などそれぞれの子どもに最も必要とされる内容を一对一で支援しています。日本語能力

不足や母国とのカリキュラムの違いから、子どもたちは学校の授業についていけない場合が多いため、学校ではフォローしきれない学習を行い、問題の克服を目指しています。また夏休みには全一五回のサマースクールを開き、普段の穴を埋めるべく、短期集中の学習を行っています。

CCSに通う子どもの中には両親共働きの家庭・片親の家庭などが多く、寂しい思いをしている子どもが少なくありません。また学校でいじめにあったり、適応での問題を抱える子どもも多く、そういった子どもの悩みを聞いたり、居場所づくりをすることもサポートの一つです。

またCCSでは学習支援を行うだけではなく、エンパワメントイベントを企画・運営しています。教室ごとに実施する料理教室では文化交流を行いながらエンパワメントを目指しています。また毎年一二月に実施するイヤーエンドパーティーではCCSの子ども全員が一堂に集まり、自国の文化を自主的に発表し、多文化・多言語空間に身を置く貴重な機会となっています。

外国の文化的背景を持つ子どもが抱える問題

CCSでサポートしている子どもは小学校一年生から高校三年生までと年齢層も幅広く、既にCCSを卒業し、大学生として年下の子もたちのサポートに携わっている学生もいます。またCCSに通う子どもの

CCS世界の子どもと手をつなぐ会

〒141-0021 東京都品川区大崎4-6-22 TEL & FAX 03-3739-5719

E-mail : ccs@e-mail.jp URL : http:homepage2.nifty.com/ccs21/

文化的背景もさまざまです。外国人の子ども、日本人と外国人を両親に持つダブルの子ども、日系ブラジル人・ペルー人三世、中国帰国者三世などです。国籍別で見ると中国、フィリピンをはじめとするアジア出身者、ブラジル、ペルーをはじめとする南米出身者が圧倒的に多い状況です。

子どもの抱える問題はたくさんあります。中でも、どの子どもにも顕著な問題、①日本語学習での立ち遅れ、②教科学習からの「落ちこぼれ」、③いじめやアイデンティティ否定による学習意欲や積極性の喪失、について触れたいと思います。

高校生や大学生が自分の意志で外国に行くのとは異なり、子どもたちは自分の意志に関係なく、親に連れられて来日してきます。そのため事前に日本語を学習して来る子どもはほとんどいません。外国から来日した児童、生徒に対して学校で日本語指導が行われますが、その頻度は自治体によっても異なり、週に一時間の日本語指導が三カ月ほど行われるのが平均的です。しかし四五分授業×二二回程度の日本語指導が終わると、彼(彼女)らは日本人の子どもと同様にすべての授業を受けることとなります。非漢字圏の国から来た子どもが二二回程度の日本語指導を終えて、問題なく授業についていけるのでしょうか。教育現場だけでは行うべき日本語指導が十分なされていないのが現状です。

日本に來日して間もない子どもは日本語の学習を優先的に行うため必然的に教科学

習が手薄になってしまいます。また国と国のカリキュラムの違いから習うことなく進む分野もあり、多くの子どもたちは教科学習で落ちこぼれてしまふのが現状です。来日して二年ほど経つと、子どもたちの日本語は非常に上達します。しかし成績は悪いまま。このような子どもに対して親や教員はしばしば「日本語ができるのに、成績が悪い。これはこの子がさぼっているからだ」というレッテルを貼りがちです。しかし彼(彼女)は決してさぼっているわけではなく、単に彼(彼女)の日本語レベルが学習言語を習得するレベルに達していないだけなのです。こうした現状を周囲が理解していないがために、彼(彼女)に対しての適切な指導がなされないことがしばしばあります。

外国の文化的背景を持つ子どもがいじめにあうケースは少なくありません。イスラムの戒律によって肌を見せる体操服を着ることができない子どもが「おかしい。変だ」と言われたり、入浴の習慣のない国からやってきた子どもが「汚い。臭い。近寄るな」と言われたりといふことも珍しくありません。そのような経験から母国や母文化に対して否定的な気持ちを抱くようになり、怒りの矛先を親に向けるようになったりもします。思春期特有の反抗に加え、母文化アイデンティティの揺らぎが起るといふ非常に複雑な状態なのです。

CCSが目指すもの

子どもたちは学校ではマイノリティで、居心地が悪い思いをすることがあっても、CCSに來れば、違いを受け止めてくれるという安心感があるようで、毎週元気な顔を見せてくれます。私たちは先生でもない、親でもない「お兄さん、お姉さんの存在」として彼(彼女)に近い立場でかかわっています。彼(彼女)の声に耳を傾け、彼(彼女)の抱える問題を理解し、またその背後にある日本の社会に対して問題を提起し、改善に向けて声を発していきたいと思っています。

私たちは、子どもたちが自分のルーツに誇りを持って、世界中のどこに居ても自分らしく胸を張って生きていってほしいと願っています。そのためにも彼(彼女)の教育の改善をしていきたいと思っています。そして彼(彼女)自身が自己実現するだけでなく、全国に存在する同様の子どもたちのロールモデルとしての役割を果たしていくことを期待しています。また日本の学校に吹き込む「新しい風」として、日本の子どもの意識を変えていく主体となり、「多様性」や「個性」が尊重される多文化共生社会の実現に大きく貢献すると期待しています。



↑2004年イヤーエンドパーティー

む「新しい風」として、日本の子どもの意識を変えていく主体となり、「多様性」や「個性」が尊重される多文化共生社会の実現に大きく貢献すると期待しています。